

【二次試験対策として「6つのルールと18の書き方」を活用する】

1. 弊社が考える二次試験対策上の重要なキーワード

弊社が考える二次試験対策上の重要なキーワードは“書く”です。これまで以下の内容に関する様々なダウンロード資料（技術士試験対策・ダウンロードコーナー）を弊社のウェブサイト上に掲載しました。これらの資料は“書く”がベースの内容です。

■ノートを使った受験勉強方法（ノートに手で書く）

■1分で理解できる解答の書き方

“書く”を重要なキーワードとしているのは、「学んだことをノートに手で“書く”こと」と「1分で理解できる解答の書き方で解答を“書く”こと」で筆記試験の合格に近づくと考えているからです。「試験の合格に必要な技術や知識を頭の中にインプットすること」と「これらを使って解答を書くこと」とも“書く”が重要なキーワードだからです。

2. 「6つのルールと18の書き方」とは

6つのルールと18の書き方^{注1)}とは、内容が明確に伝わる技術文書を“書く”ための書き方のことです。この書き方は、二次試験対策として活用できます。6つのルールと18の書き方も二次試験対策も“書く”が重要なキーワードだからです。

【6つのルールと18の書き方】

ルール		書き方と内容	
ルール1	冒頭に書く	書き方1	要点を冒頭に書く
		書き方2	全体像を冒頭に書く
		書き方3	枠組みを冒頭に書く
ルール2	ペアで書く	書き方4	根拠を書く
		書き方5	条件を書く
ルール3	分けて書く	書き方6	かたまりに分けて書く
		書き方7	箇条書きで書く
		書き方8	表で書く
ルール4	視覚的に書く	書き方9	写真や図を入れて書く
		書き方10	強調して書く
		書き方11	まとまりを持たせて書く
ルール5	合わせて書く	書き方12	組み合わせで書く
ルール6	明確に伝わる文を書く	書き方13	具体的な文を書く
		書き方14	意味が明確な文を書く
		書き方15	能動態の文を書く
		書き方16	短い文を書く
		書き方17	肯定文を書く
		書き方18	文法を守って文を書く

赤色の枠：「1分で理解できる解答の書き方」で使う書き方
 青色の枠：「ノートを使った受験勉強方法」で使う書き方
 桃色の枠：「両方で使う書き方」

注1)：出典・「マンガでわかる技術文書の書き方」

3. 「1分で理解できる解答の書き方」で使う書き方

1分で理解できる解答の書き方^{注2)}で使う書き方を以下に示します。

■書き方1：要点を冒頭に書く

■書き方4：根拠を書く^{注3)}

■ルール6：明確に伝わる文を書く^{注4)}

＊書き方13：具体的な文を書く

＊書き方14：意味が明確な文を書く

＊書き方15：能動態の文を書く

＊書き方16：短い文を書く

＊書き方17：肯定文を書く

＊書き方18：文法を守って書く

注2)：1分で理解できる解答の書き方については、弊社のウェブサイトの「2026年度・技術士二次試験対策」のページを参照のこと

注3)：1分で理解できる解答の書き方での「解答の要点の説明」は、解答の要点の根拠と考えることができます。

注4)：ルール6を使って、内容が明確に伝わる文で解答を書きます。

4. 「ノートを使った受験勉強方法」で使う書き方

ノートを使った受験勉強方法で使う書き方を以下に示します。

■書き方4：根拠を書く^{注5)}

■書き方5：条件を書く^{注5)}

■ルール3：分けて書く^{注6)}

＊書き方6：かたまりに分けて書く

＊書き方7：箇条書きで書く

＊書き方8：表で書く

■書き方10：強調して書く^{注7)}

注5)：教材から学んだこと（教材に書いてあること）に対して、「この内容の根拠は何か？」や「この内容が成立するための条件は何か？」などと自問し、その答えを調べたり考えたりしてそれをノートに書くことで学んだことの技術や知識が広がります。つまり、解答を考えるための引き出しが増えます。

注6)：「技術士試験対策・ダウンロードコーナー」の中の「続・参考・『ノートを使って勉強する』という受験勉強方法について」の資料を参照のこと

注 7)：「技術士試験対策・ダウンロードコーナー」の中の「参考・『ノートを使って勉強する』
という受験勉強方法について」の資料を参照のこと

5. 日常業務の中で使う

日常業務の中で各書き方を使うことが二次試験対策として「6つのルールと18の書き方」を使ううえでのポイントです。日常業務の中で各書き方を使うことで各書き方が自分のものになります。自分のものになることで、二次試験対策の中で各書き方を自由に使いこなせるようになります。自由に使いこなせるようになることで以下の成果が出ます。

■受験勉強の成果が必ず出る。

■試験場で「1分で理解できる解答」を必ず書くことができる。

「仕事は仕事」，「受験勉強は受験勉強」と区別して考えるのではなく「受験勉強は仕事の延長」と考えることで，「二次試験対策として『6つのルールと18の書き方』を活用する」という考え方（発想）が出てきます。

以 上